

平山小学校 研究開発学校最終発表会「生きぬく科」



2月18日(土)平山小学校で、文部科学省 研究開発学校(最終年度)の公開研究会が開催されました。公開授業では、3・5・6年生がICT機器を使いました。「自分たちの考えを伝える場面」「友達の意見を聞いて考えを深める場面」「友達と協力してより良い考えを創り出していく場面」などで、タブレットPCを始めとするICT機器がとても有効に活用されていました。



わかくさ

どうやって生きぬいたの?
～被災者へのインタビュー～
(自分の命を大切に)

熊本地震を経験した特別支援学級の先生に、自分の知りたいことをインタビューし、聞いたことを自分の言葉で表現する。



1年

けがをしないためにできること
(命を大切に)

がれきやガラスで埋まった大地震後の道を歩く疑似体験をもとに、怪我をしない避難するための手順をフローチャートに表す。



2年

みんなで分けよう
(共に生きる)

避難所運営の立場に立って、状況や避難してくる家族構成などの情報をもとに、食料の分け方をシミュレーションし、よりよい配り方を考える。



4年

倒れている人がいたら…
(人を助ける)

倒れている人を助けるための方法をシミュレーションし、専門家からの助言を受けながら、心肺蘇生の手順の流れ図を改善する。



3年 浅川ガイドセットを作ろう(自然の恵みを大切に)
浅川の自然の豊かさや災害時の危険について、違うグループの友達と考えを出し合い、浅川ガイドセット作成プランを改善する。

(STUDYNET エクスチェンジボードの活用)



5年 ハザードマップをつくろう(安全な社会をつくる)
3つの地形別のグループでどこが危険か話し合ったことをもとに、「山間部」の地図の中で避難所としてより適した場所を見つける。(STUDYNOTEの活用)



6年 災害に強いまちをつくろう(安全な社会をつくる)

もし自分がこのまちの市長だったら、限られた予算の中で、どのようにしていくか、施設や住居の移転、減災設備の配置を考え、より強いまちを考える。

(STUDYX アクティビティモード・シェアリングボードの活用)



6年
まちづくりプロジェクト
(安全な社会をつくる)

保護者・地域の防災意識を高めようと立ち上がった6年生!プレゼンテーション、動画、紙芝居、新聞等、8つの発信方法で保護者に伝える本番に向けての練習。

あきみかん

あわてない あきらめない
よくきく
よくみる
かんがえてこうどうする



平山小学校はICT活用教育のモデルとして、日野市内だけでなく、全国的に先進的な実践を発信し続けています。平山小学校のWebサイトでも、ICT活用教育に関する情報や授業の様子などの発信がされています。市内の他校でも実践できる内容や参考になる情報もたくさんありますので、ぜひ、ご覧ください!!

